

ボローニャ・プロセス 年表

1988	大学大憲章(The Magna Charta Universitatum) ボローニャにおいてヨーロッパ諸大学の学長によって署名された。後にボローニャ・プロセスとして知られるものの基礎原則を形作る。
1997 (4月)	リスボン協定(Lisbon Convention) ヨーロッパ諸国における学術的稼働性を推進するため、研究、修了証書、学位の相互認識を強調
1998 (5月)	ソルボンヌ宣言(The Sorbonne Declaration) ヨーロッパ高等教育システムの調和を提唱し、フランス、ドイツ、イタリア、英国の教育担当大臣によって調印された。
1999 (6月)	ボローニャ宣言(The Bologna Declaration) 2010年までに、一貫した、互換性のある、競争力のあるヨーロッパ高等教育エリアを作るため、自国の高等教育システムを再構築することを宣誓した29カ国によって調印された。
2001 (3月)	サラマンカ協定(Salamanca Convention) プラグ・サミットに向けて、300人以上の高等教育代表者がサラマンカに集まり、ボローニャ・プロセスにおける高等教育組織の役割を評価した。
2001 (3月)	ゲーテボルク学生協定(Göteborg Student Convention) プラグ・サミットに向けて、National Unions of Students in Europeの代表者がボローニャ宣言に対する自らの立場を公式に表明。
2001 (5月)	プラハ会合(Prague Summit) 3カ国(クロアチア、サイプラス、トルコ)がボローニャ宣言に加盟。ボローニャ・プロセスでのこれまでの過程を振り返り、これからの方向性、優先事項を定めた。
2003 (5月)	グラーツ協定(Graz Convention) ヨーロッパ大学協会(European University Association)が、ボローニャ・リフォームを行う上で大学が果たす中心的役割を強調するグラーツ宣言を承認した。
2003 (9月)	ベルリン会合(Berlin Summit) ボローニャ・プロセスの成果を概観し、ヨーロッパ高等教育エリアの次の段階のための方向性、優先事項を定めた。ベルリン・コミュニケが調印された。
2005 (5月)	ベルゲン会合(Bergen Summit) 5カ国(アゼルバイジャン、アルメニア、ジョージア、モルドヴァ、ウクライナ)が、ボローニャ宣言に加盟し、合計45カ国になった。ベルゲン・コミュニケが調印された。このコミュニケは、質保証において、国際協力のさらなる発展の必要性を強調。
2007 (6, 7月)	ロンドン会合(London Summit) モンテネグロ共和国が加盟し、合計46カ国になった。ロンドン・コミュニケが調印された。このコミュニケは、2009年に向けて、3サイクル学位システム、質保障、学位や在学期間の認知に関して、優先的に取り組んでいくことが盛り込まれた。